

令和6年度 天草市男女共同参画審議会議事録
(概要版)

令和6年8月6日(木)

地域振興部 男女共同参画課

議 事 録

会議の名称	令和6年度 天草市男女共同参画審議会
開催日時	令和6年 8月6日(木) 14:00 ～ 15:30
開催場所	複合施設こくらす 会議室B C
議 長 名	石井佳世
出席者氏名	有江光、石津由正、江口俊一、迫田峰代、 佐々木千里、森山登志子、山下篤子、山本智保子
欠席者氏名	榎田和壽、酒井成寿、下門千華
会議事項	1 開会 2 あいさつ ・男女共同参画審議会 石井会長 3 議事 (1)「第4次天草市男女共同参画計画」令和5年度事業実施状況について 4 その他 5 閉会
	議事の内容
●会長	【1 開会】 【2 あいさつ】 男女共同参画審議会出席への感謝の言葉。(略) 世界経済フォーラムが毎年発表している世界男女格差報告書で今年もジェンダーギャップ指数が発表されたが、日本は146か国中118位という先進国の中でもいつも通りというか一番低く、アジアでも中国や韓国よりも低いということになってしまった。過去最低だった昨年に比べると若干改善していると思うが、依然として低迷が続いている。 今年の始まりは痛ましいことから始まってしまった。能登半島地震では大きな被害があり、そこでも男女共同参画の視点からの災害対応が難しかったと報道がされている。調査の結果によると、避難所の運営でなかなか女性や多様な人々のニーズが反映されにくかったという現状があった。例えば下着等の配布や洗濯物の下着やスカートなどをどこに干せばいいのか、更衣室、授乳室の設置が難しかった。運営する方も大変な中で女性や多様な人々のニーズに気づきにくいということが、住民組織の長、自治会長、防災・危機管理部局等への女性の少なさ、そのような背景が影響していると調査結果でわかった。もう一つの課題として炊き出しのような労働を女性が無償で行うことが多い中、災害時だけでなくその後の家族の介護・世話を女性が担うことが多かったので、仕事にも出ることができなかった。それが仕事をしないことに繋がってしまった。そのようないろいろな問題があったことがわかっている。災害時ではなく平常時から、女性が無償のケア労働をするものだという固定的な性別役割分業の意識も背景にある。ご存じのように災害は日本のどこでもいつでも起こりうるので男女共同参画の視点を持った自治体づくりが益々重要になってくると思う。天草市では分野における女性の参画拡大、男女共同参画の視点からの安心・安全な暮らしの実現、男女共同参画社会の実現のための意識改革、男女共同参画推進体制の充実と連携強化と4つの重点目標を設定して男女共同参画社会への実現に向けて取り組んでいるので今日はそれに向けて皆様と意見を交換して取り組んでいけたらと考えている。

	【 3 議事】 (1)「第4次天草市男女共同参画計画」令和5年度事業実施状況について 事務局から資料に沿って説明 ●事務局 重点目標1の概要、課題等の説明 あらゆる分野における女性の参画拡大 ・市の審議会等における女性委員の登用率 ・市における管理的地位及び監督職ポストに占める女性職員の割合 ・農業委員における女性委員の登用率 ・認定農業者に占める女性の数・割合 ・家族経営協定締結農家数 ●委員 この評価指標だが、基本的には数字が上であれば男女共同参画が進んでいるという見方に、どちらかというポジティブな方になる。国や自治体に倣ってだと思うが、例えばネガティブな指標もあった方が分かりやすいと思う。それはどういう事かという、天草市において、会計年度任用職員の総数とその女性の割合、それが年次別にどうなっているのか。あるいは、女性の賃金はなぜ安いのか。天草市役所内ですぐ調べられる数字として、全女性職員の平均賃金と全男性職員の平均賃金を比較する。一般的に日本の2022年合同政策研究所の数字でいうと男性が100%とすると女性は75.7%と数字が出ている。パーセンテージではなく、より分かりやすく、金額を出すとそのシビアさがよりはっきりとわかる。あと、市役所内でハラスメントの相談件数、年次ごとにどうだったか、その内容はどうか。いろいろと資料をみてたんですけども、特定事業主行動計画を天草市も出しているが、特定事業主というのはいわゆる地方自治体の事で、特定事業主のもとで働いている人というのは公務員。この公務員の人たちの状況を調べたのが令和5年に出ている。例えば育児休業が取りやすいかとあるが取りにくい。なぜ取りにくいのかという、同僚や上司に了解が得られにくい、嫌がられそうとか、結構シビアな感想が別の資料にはしっかり書いてある。そういったわかりやすい資料を出した方がいいと思う。 それと2ページ、課題・今後の取り組みのところに“ダイバーシティ&インクルージョンの組織風土づくりが必要である”とあるが、天草市はこれできていないとしているようなもの。これが書いてあること自体が異常なことなので、こういうところを示す意味でも、さっき申し上げた数字は明らかにした方がよろしいのではないですかという意見です。 ●事務局 いただいたご意見は事務局内で協議し、総務課へ共有し、一旦は事務局内での手持ち資料とすることで進めさせていただければと思う。 重点目標2の概要、課題等の説明 男女共同参画の視点からの安全安心な暮らしの実現 ・地区防災連絡協議会における女性委員の登用率 ・母子家庭等高等職業訓練促進給付金事業の利用者 ・障がい者の理解促進研修及び啓発事業の参加者数 ・外国人居住者が天草での生活に満足している割合
--	--

	・乳がん及び子宮頸がん検診受診率 ・子育てに係るサービスが充実していると感じる子育て世代の割合(再掲)
●委員	地区防災連絡協議会における女性委員の登用率について、8ページの取組成果の“防災部署と男女共同参画部門で連携し職員研修を開催した”とあるがその研修参加者194人のうち女性は何人か。会長もあいさつで防災の事での問題をいろいろと挙げられていたように、子育て中のお母さん方についても配慮していただきたいと常日頃思っている。研修に参加された職員の方で子育て関係者もいらっしまったのか。疑問に思ったので質問します。
●事務局	今回の194名参加があったが、基本的に避難所を運営する職員になるので子育て世代の女性は少なかったのではないかと思います。男性と女性の人数については把握していない。本庁、支所それぞれの避難所待機職員になるので、男性の方が多く、しかも若い男性の方が多いのではと思う。子育て世代の女性も含まれているかと思いますが、小さい子どもさんではなく、中高生くらいの子どもさんがいる職員が多かったように思う。実は本年度も同じように6月に防災危機管理課と共催で全職員対象に職員研修を実施している。講師については、昨年ご講話をいただいた方と今年度より防災危機管理課に防災監が在籍しているのでその二人にお願いしました。内容については、男女共同参画の視点に立った防災ということで熊本地震での体験を交えた話と、天草市の防災管理について講話をしていただいた。昨年実施した内容と同じような内容で、全職員が聞いている。
●委員	今の質問と重複するが、防災に関して男女共同参画課が職員研修をされたということで報告がありましたが、この194人については、市役所職員の方をはじめ、避難所運營業務委託受託団体等と記載があるが、地区振興会が52団体あり、その団体で手を上げていただいた振興会の職員も含まれている。市職員の方は避難所運営については少ない現状の中でいろんな対応をしなければならないので、避難所の運営については手狭になるということで、まちづくり支援課の方から振興会の方に依頼を受けて現在5～6団体くらいの振興会が手を上げて受託をされている現状です。その振興会も男性がほぼほぼ、会長、副会長、区長など、男性が100%に近いという現状です。今後、まちづくり支援課を含めたところで、振興会を推進していくうえで女性の参画をお願いする形になるかと思う。なかなか家庭もあるので大変なことだと思う。
●事務局	ありがとうございます。今、委員さんからお話がありましたが、令和5年度天草市指定緊急避難場所運営委託事業として防災危機管理課と委託契約をしているところが天草市内で14団体契約をさせていただいている。令和6年についても同じ14団体で運営委託をさせていただいている状況です。避難所は天草市内、指定避難所に278か所ある。それとまた別に自主防災組織、地区ごと、区ごとで令和6年4月1日時点で204自主防災組織がある。その細かい男女比などは把握していない。出前講座や毎年のように職員研修等で啓発をさせていただければと思っている。女性、男性、いろんな方の声が防災部署に届けばと思っている。
●委員	子育て世代の女性の参画を積極的に促すことであれば、子連れで来ても

	らって、子供の世話は委員のところがする。ちゃんと予算をつけて、しかるべき報酬をお支払いしてそういう体制にすると敷居が下がって参加しやすくなる。すでにされているかと思うが検討してほしい。
●事務局	ありがとうございます。先ほどお話したのもそうだが、今年度も予定している女性の健康セミナーや、つのでフェスタ等のイベント時については、わ・わ・わさんに協力いただき託児をお願いすることがあるので、引続き託児についてご協力いただき、子育て世代のお母さんたちも参加できるような体制づくりをしていきたいと考えている。
●委員	重点目標２の最後の“子育てに係るサービスが充実していると感じる子育て世代の割合”という点で実績が下がっているが下がっている原因の分析ですとか男女共同参画の点からの対応、そのあたりの検討状況などもしわかれば聞きたい。
●事務局	ありがとうございます。私たちも子育て世代のポイントが減っていると部長、課長と話をしたところではあった。現在天草市で令和７年度から１１年度を計画期間とする第三期天草市子ども・子育て支援事業計画の策定が進んでいる状況である。この計画は国が示している子ども計画とされるもので令和４年６月に制定された子ども基本法において子ども大綱を勘案して都道府県や市町村が策定に努めるように規定された計画です。天草市でも子育てナンバーワンの施策を進めているが、今後策定される第三期天草市子ども・子育て支援事業計画で子育て支援のほかに子供の貧困やいじめ問題など様々な分野で連携した施策とすることが必要なので、子育てに関する分野別計画として策定されることとなっている。その計画の中にも現在行っている事業や、今から行っていこうとしている事業なども盛り込んだ形での計画策定になるので、その計画が策定され、実際に事業が実施されて、今年度からお祝い金も出ているのでここの数値が今度の報告では上がってくることを願っている。
●議長	取組内容はどんどん充実してきているのに、充実していると感じる子育て世代が減っている。昔よりはよくなったが、他と比べるとみたいな東京都などの取組の例がニュースや SNS 等から情報が入ってくる世の中なのでそういうところがあるかと感じた。もしかするとこのアンケートを実施するときにどんな子育てサービスがあったらいいのか自由記述でも、そういうことを聞いてみると具体的な取組やこの原因の考察に繋がると感じた。
●委員	パパ手帳の交付とあるが実際にいくつ配付したとか数はわかるのか？それとパパの育児参加というのは、まずは企業、仕事先の協力なり理解なりそういうのがないと仕事休んでまで子どもを迎えに行かなければならないのか？という意識が今の企業には多いのでは。なので、働いている先の企業などへのセミナーなり啓発があれば、子供が病気になったときにお母さんだけが迎えに行くのではなく、お父さんが迎えに行つてと言えたり、預けられるところがあれば預けたりすることができれば、お母さんの負担が減って、お母さんの安心感はないがなんとか最後まで仕事を終えることができる。お母さんに後ろめたさをもって子育てをしてほしくない。そういったことを含めて天草全体の地域の意識を高めてもらう方法を何

	かあればと思っている。さっきおっしゃられたように、子育ての数字が低くなったと、やはりあたしの子どもたちがいるところの取組みを聞いてもそれいいね！と思うものばかりが割とある。しかし私が天草市の取組みを知らないだけなので他の取組みがいいねと思うことがあると思う。しかしそれもどんな田舎にいる人でも知らせる方法をもっと積極的に天草市民の方にお知らせする方法を新たに考えてもらえれば、少しは天草市いいねとなるところがあるのではないかと思います。
●事務局	ありがとうございました。パパ手帳の交付数について把握しておりませんので、改めて確認して皆様にお伝えしたいと思います。 お父さんたちがお休みを取りにくいことや、育児休業は男性も取っているというところ、やはり地元ではなかなか取れないということもあり、企業の意識改革、男性女性の意識改革どちらも必要だと考える。セミナーなどを通してお話をしていくことはできると思っている。ただ皆さんに届くかということが問題。子育てアプリの啓発や今から子育てしていく、今から子供を産んで育てていく方たちへの啓発はできていても、私たちのようなその親世代の人たちは知らないことが多いのかと思うところもある。子育て支援課や健康増進課へ周知方法をもう一度確認して、より多くの方に周知できるような体制をお願いしていく。
●委員	障害者支援の 11 ページのところ、アウトリーチと相談支援について少し話しをしたい。重層的支援体制整備事業や孤立孤独支援、女性困難支援など中央から基礎自治体が山のように業務を押し付けられていて、各自治体は大変ではあると思うのですが、一方で重層的な相談支援ができていいのかというところ、できていない。これは小さな市町村だけじゃなくて大きいところでもそうで、先月大阪で残念な事件が起こった。午前中に大阪市の児童相談所に 50 代のシングルファーザーが助けてほしいと電話をかけた。この人には 5 歳の女の子がいて発達障害があったようだ。自分一人でみることは難しい、死ぬかもしれないと相談の電話であった。しかし児童相談所は「お父さん、児童相談所に来て相談してくださいね」と言った。警察にも電話していたようだ。するとどうなったかというと、そのお父さんはレンタカーで奈良の山奥まで行き、ダム湖に親子で身を投げた。翌朝無人の車が停まっていたので不審に思っていたら湖に水死体があった。これは、相談支援の実務経験がある人間だったらすぐにアウトリーチをしなくてはいけないという事案なんです。でも、行政の方がいらっしゃるから言いにくいんですが、難しい案件はなかなか受けない。忌避する。できるだけ難しい自傷他害の可能性のあるものは、行政はできるだけ関わりたくない。事件が起きたら「すみません、そこまで深刻だとは思いませんでした。」と決まり文句で逃げる。しかしこれはしょうがない。全国全部ほとんどそうだから。私は実務経験ありの人間として、夜間や休日の電話相談の立ち上げを担った。そこで大変な案件を自分の休日を潰して支援しようとしたらクビになった。これをしようとする、相談員を育てるところからしないといけないんです。これが現実なんですよ。
●事務局	ありがとうございます。先ほど説明の中でアウトリーチについて説明不足でした。アウトリーチとは支援が必要であるにも関わらず届いていない人に対し、行政や支援機関などが積極的に働きかけて情報、支援を届けるプロセス。このことをアウトリーチ支援という。今、委員からおっしゃっ

	ていただいたので福祉課に繋げる。
●委員	子育て支援の事で市民に広まっていないのか？と少し不安になった。広報に毎月「ハハトコ」を載せている。わ・わ・わでは、市の委託事業として妊娠から就学前まで子育ての充実を子育て中のお母さんたちに協力しているところである。「ハハトコ」はマタニティの方やパパの育児学級、ファミリーカフェという家族で参加できる講座も委託事業で行っている。それを広報に載せている。その中で思うことが、お父さんたちの育児の参加が増えてきて、私たちが設けているひろばにもお父さんが一人で連れて来られたりと、男性の育児の参加が増えてきていると感じる。だから実績の数字が減っているのが正直言ってショックだった。これを励みに頑張っていきたいと思った。
●事務局	この市民アンケートは、年齢層の幅が関係なくとってあるので毎年確実な数字は取れない。逆に子育て中の方に限定すれば数字は上がっていると思うのだが。確実なものがわかれば提供したいと思う。
●事務局	重点目標 3, 4 の概要、課題等の説明 男女共同参画社会の実現のための意識改革 ・性別によって役割を固定してはいけなと考える市民の割合 ・性別に関係なく個性と能力を発揮する機会があると感じる市民の割合 ・学校における男女共同参画に関する研修の実施状況 ・人権が尊重されていると感じる市民の割合 男女共同参画推進体制の充実と連携強化 ・男女共同参画センターの登録団体数
●委員	男女共同参画推進ネットワーク～つんのでネット風～の代表をしています。最後に市民や各種団体等との連携・協働による取組の推進というところで私たちも市と協働で私たちの活動を進めている。最初ページにあったように、つんのでフェスタの中で「パネルディスカッション 女性と政治」を開催した。内容は硬かったのだが、女性と題していたが若者にも政治に興味を持ってもらおうというところで高校生にも案内をして回った。しかし高校生も忙しい時期だったのか一人も参加がなくがっかりした。やはり困っている当事者が声を上げないと、政治も私たちの暮らしもよくなならないということで「女性と政治」を開催した。市議会議員は女性が一人なので、なんとか増やすようにできないかと考えてまた何か開催したいと思う。その時はみなさん参加いただければと思う。
●委員	今困ってることがあれば声を上げて、と話があったので私も話をさせていただきたい。学校教育、小学生などの SOS の出し方。援助希求や援助要請が難しい。黒板に書いて子供に教えても伝わらない。効果的にどうやって教えるのかというと、先生自身が困っているときに手伝ってほしいことを見せる。先生自身が困っているときに同僚の別の先生に助けを求めるという行動でしか援助敵意はなかなか学べない。これは女の人が長い間置かれている社会的立場と同じで、助けを求めても助けてくれない。だれかうるさいオヤジが文句を言ってきてかえって説教されて嫌な思いをすると、どんどん委縮して結局助けの声を上げられない。こういったことはロールプレイ（模擬演習）を通じてでないとなかなか伝わらない。大人を変える

●議長 ●事務局	のは難しい。子供たちに対してもっと積極的にしたい。別途私の案を出させていただきたいと思っています。 これをもちまして議題の審議を終了する。 4. その他 特になし これで閉会とする。
---------------------	---